

ばんしん景況レポート

〒670-0962
姫路市南駅前町110番地
播州信用金庫

中小企業景気動向調査 2021年1月～3月期 NO. 62

照会先 経営企画部
TEL 079-280-3398(直通)
FAX 079-281-4667

【概況】 2021年1月～3月期の業況は▲19.9、前期比 6.0ポイントプラスと上向きました。
来期は両地域とも上向く見通しです。

景気動向調査主要指数D.I（総合）

項目	全地域			姫路地域			神戸地域		
	2020年10月～12月期	2021年1月～3月期	2021年4月～6月期予想	2020年10月～12月期	2021年1月～3月期	2021年4月～6月期予想	2020年10月～12月期	2021年1月～3月期	2021年4月～6月期予想
業況	▲ 25.9	▲ 19.9	▲ 16.5	▲ 26.6	▲ 22.1	▲ 19.3	▲ 23.1	▲ 15.0	▲ 11.7
売上額	▲ 17.8	▲ 21.4	▲ 6.3	▲ 20.7	▲ 26.0	▲ 7.6	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 4.7
収益	▲ 17.0	▲ 20.7	▲ 8.1	▲ 20.7	▲ 25.6	▲ 11.2	▲ 12.7	▲ 14.2	▲ 4.7
販売価格	▲ 5.4	▲ 2.5	▲ 0.7	▲ 8.6	▲ 2.0	▲ 1.2	▲ 2.6	▲ 1.5	0.4
仕入価格	2.7	5.4	4.2	▲ 0.4	5.2	4.0	6.2	6.6	5.9
在庫	▲ 6.1	▲ 0.7	▲ 3.2	▲ 6.0	▲ 0.5	▲ 3.2	▲ 8.8	▲ 1.5	▲ 3.1
資金繰り	▲ 3.0	▲ 2.2	▲ 0.7	▲ 4.1	▲ 2.8	▲ 1.2	▲ 0.7	▲ 1.1	0.4
人手	▲ 11.6	▲ 13.3	▲ 13.7	▲ 14.6	▲ 16.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 8.4	▲ 9.5
設備状況	▲ 6.5	▲ 7.4	▲ 7.8	▲ 5.8	▲ 8.1	▲ 9.1	▲ 6.3	▲ 5.3	▲ 5.3

2021年1月～3月期実績

《 卸売業以外の業種で上向く 》

当期の全地域の全業況D.Iは▲19.9、前期比6.0ポイントプラスと上向きました。

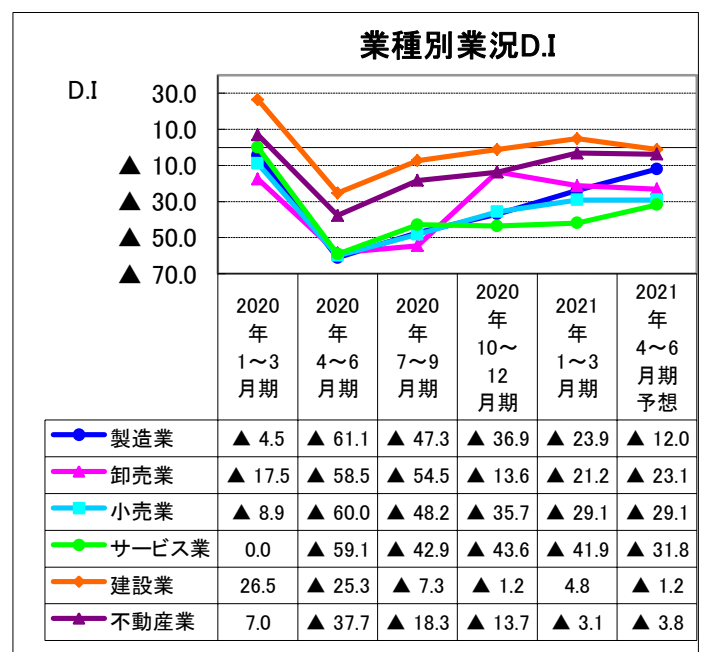
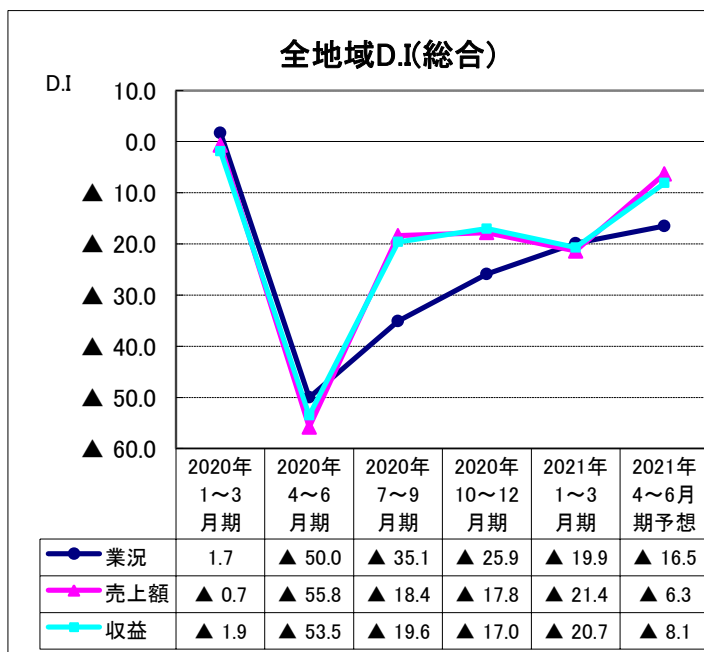
全地域の業種別では卸売業以外の業種において上向きました。

2021年4月～6月期見通し

《 両地域とも上向く見通し 》

来期の全地域の全業種予想業況D.Iは▲16.5、当期比3.4ポイントプラスとさらに上向く見通しです。全地域の業種別では、製造業、サービス業において上向く見通しです。

地域別では、両地域とも上向く見通しです。



調査要領

1. 調査目的

当金庫営業地域内の景気動向を把握し、お取引先の経営者の皆様に景気に関する情報提供をおこない、経営にお役立ていただくことを目的としています。

2. 調査時期

2021年3月上旬

3. 調査対象期間

2021年1月～3月期実績（2020年10月～12月期との比較）

2021年4月～6月期予想（2021年1月～3月期実績との比較）

4. 調査方法

調査員による「面接聞き取り調査」

5. 分析方法

本調査はD.I（ディフュージョン・インデックス）による分析

D.Iとは、景気が「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」、「楽」と回答した企業の割合から「悪い」、「減少」、「下降」、「不足」、「苦しい」と回答した企業の割合を差し引いた構成比差から景気の方角を判断する指数です。

6. 調査地域

姫路地域・・・姫路地区（姫路市）

東播地区（加古川市・高砂市・三木市・稲美町）

西播地区（赤穂市・相生市・たつの市・太子町）

北播地区（加西市・福崎町）

神戸地域・・・神戸地区（神戸市・西宮市・尼崎市・宝塚市・伊丹市）

明石地区（明石市・神戸市西区）

※調査地域については、上記地区に所在する当金庫支店を基準とした地域設定であります。

調査先および回答状況

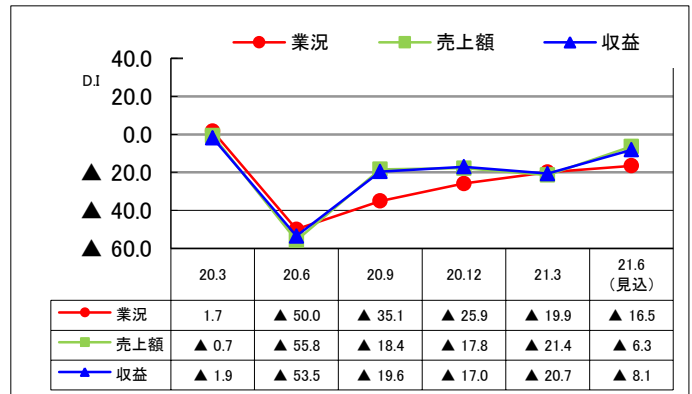
	依頼数	回答数	回答率
製造業	112	110	98.2%
卸売業	66	66	100.0%
小売業	56	55	98.2%
サービス業	151	150	99.3%
建設業	84	83	98.8%
不動産業	131	131	100.0%
合計	600	595	99.1%

本レポートは、標記時点における情報提供のみを目的としたものであります。したがって投資等や施策実施に関する最終決定はご自身の判断でなされるようお願いいたします。また、本レポート掲載資料については、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

1. 業況

全業種における業況D. Iは▲19.9、前期比6.0ポイントプラス（前年同期比 ▲21.6）と上向きました。業種別では、卸売業以外の業種において上向きました。

来期予想D. Iは▲16.5、当期比3.4ポイントプラスとさらに上向く見通しです。業種別では、製造業、サービス業において上向く見通しです。



2. 売上額

全業種における売上額D. Iは▲21.4、前期比3.6ポイントマイナス（前年同期比 ▲20.7）と低迷しました。業種別では、製造業以外の業種において低迷しました。

来期予想D. Iは▲6.3、当期比15.1ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。業種別では、全業種において上向く見通しです。

3. 収益

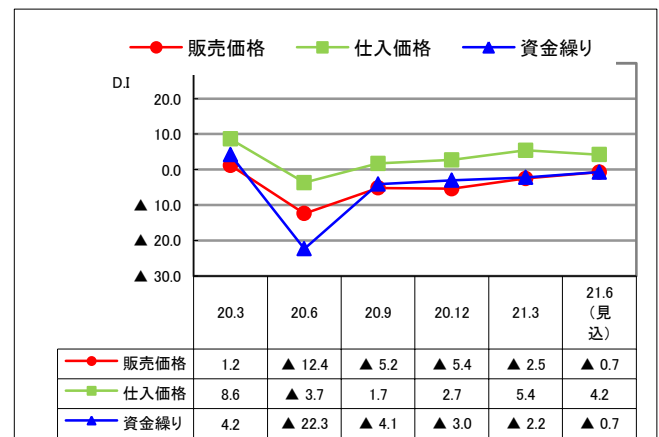
全業種における収益D. Iは▲20.7、前期比3.7ポイントマイナス（前年同期比 ▲18.8）と低迷しました。業種別では、製造業以外の業種において低迷しました。

来期予想D. Iは▲8.1、当期比12.6ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。業種別では、建設業以外の業種において改善する見通しです。

4. 資金繰り

全業種における資金繰りD. Iは▲2.2、前期比0.8ポイントプラス（前年同期比 ▲6.4）と厳しさが和らぎました。業種別では、製造業、卸売業、サービス業において和らぎました。

来期予想D. Iは▲0.7、当期比1.5ポイントプラスとさらに厳しさが和らぐ見通しです。業種別では、卸売業、小売業、サービス業において和らぐ見通しです。



5. 販売価格

全業種における販売価格D. Iは▲2.5、前期比2.9ポイントプラス（前年同期比 ▲3.7）と下降幅が縮小しました。

業種別では、小売業、不動産業以外の業種において上昇しました。

来期予想D. Iは▲0.7、当期比1.8ポイントプラスとさらに厳しさが和らぐ見通しです。

業種別では、卸売業、建設業において低下する見通しです。

6. 仕入価格

全業種における仕入価格D. Iは5.4、前期比2.7ポイントプラス（前年同期比 ▲3.2）と上昇幅が拡大しました。

業種別では、製造業、卸売業、建設業において上昇しました。

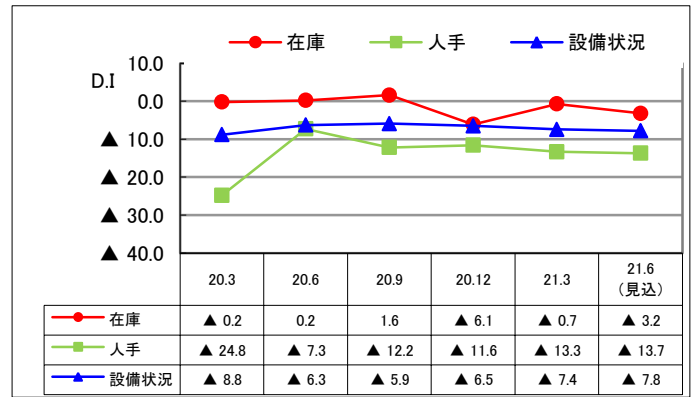
来期予想D. Iは4.2、当期比1.2ポイントマイナスと上昇幅が縮小する見通しです。

業種別では、小売業、不動産業において上昇する見通しです。

7. 在庫

全業種における在庫D.Iは▲0.7、前期比5.4ポイントプラス（前年同期比 ▲0.5）と不足感が改善しました。業種別では、小売業以外で不足感が改善しました。

来期予想D.Iは▲3.2、当期比2.5ポイントマイナスと不足感が強まる見通しです。業種別では、全業種で不足感が強まる見通しです。



8. 人手

全業種における人手D.Iは▲13.3、前期比1.7ポイントマイナス（前年同期比+11.5）と不足感が強まりました。業種別では、建設業と不動産業以外で不足感が強まりました。

来期予想D.Iは▲13.7、当期比0.4ポイントマイナスとさらに不足感が強まる見通しです。業種別では、小売業と建設業以外で不足感が強まる見通しです。

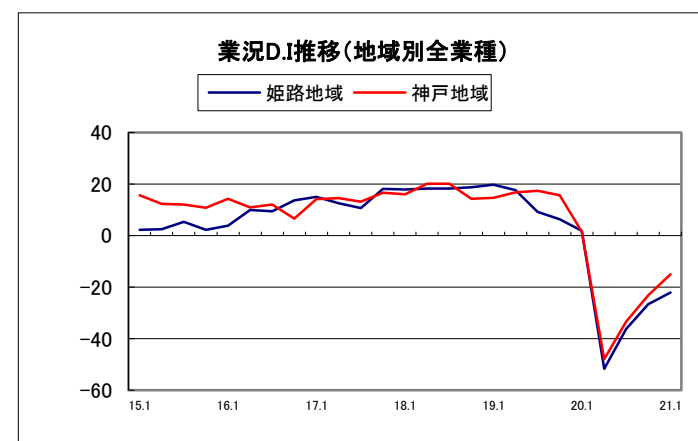
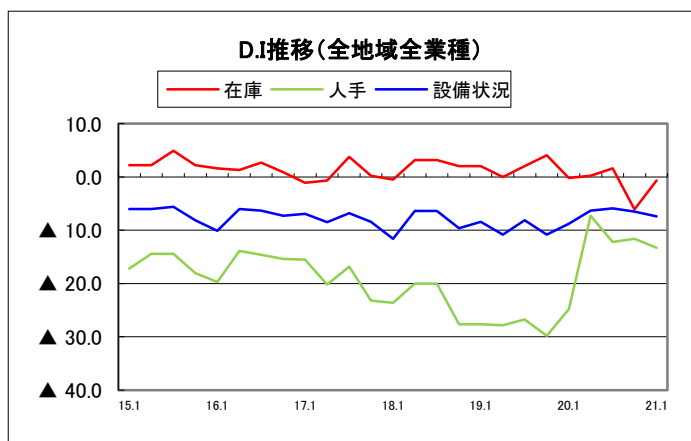
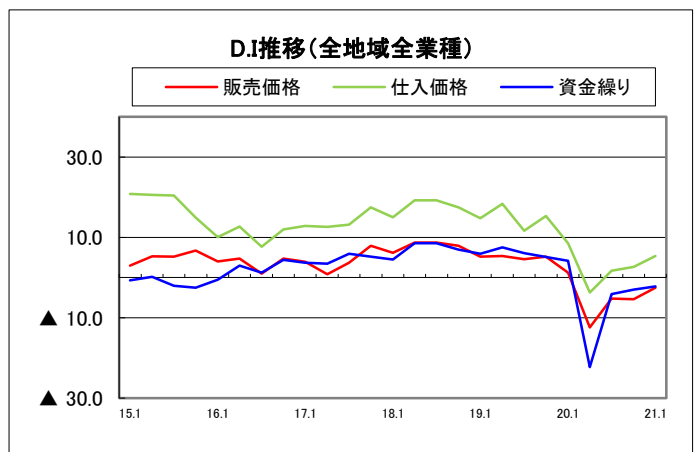
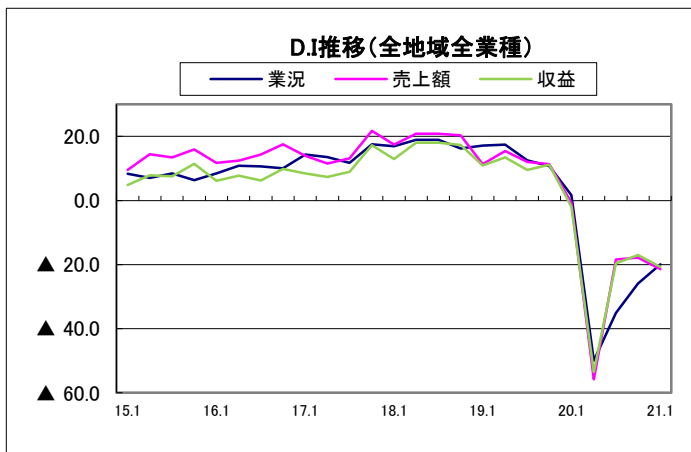
9. 設備状況

全業種における設備状況D.Iは▲7.4、前期比0.9ポイントマイナス（前年同期比+1.4）と低迷しました。

また、設備投資を行ったと回答した企業の割合は25.6%、前期比3.4ポイントプラス（前年同期比▲2.9）と増加しました。また業種別では、小売業において設備投資を行った企業の割合が減少しました。

来期に設備投資を行うと回答した企業の割合は27.3%、当期比増加1.7ポイントプラスと増加する見通しです。

過去D.I推移



地域別景況D. I

□ 全業種総合

(姫路地域) 回答企業320企業 (回答率98.7%)
(神戸地域) 回答企業275企業 (回答率99.6%)

1. 業況

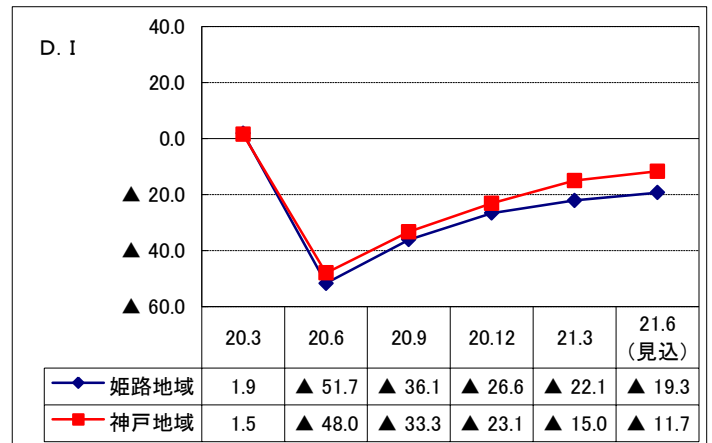
姫路地域の業況D. Iは▲22.1、前期比4.5ポイントプラス（前年同期比 ▲24.0）と上向きました。

来期予想D. Iは▲19.3、当期比2.8ポイントプラスとさらに上向く見通しです。

神戸地域の業況D. Iは▲15.0、前期比8.1ポイントプラス（前年同期比 ▲16.5）と上向きました。

来期予想D. Iは▲11.7、当期比3.3ポイントプラスとさらに上向く見通しです。

当期の地域別業況は、両地域とも上向きました。



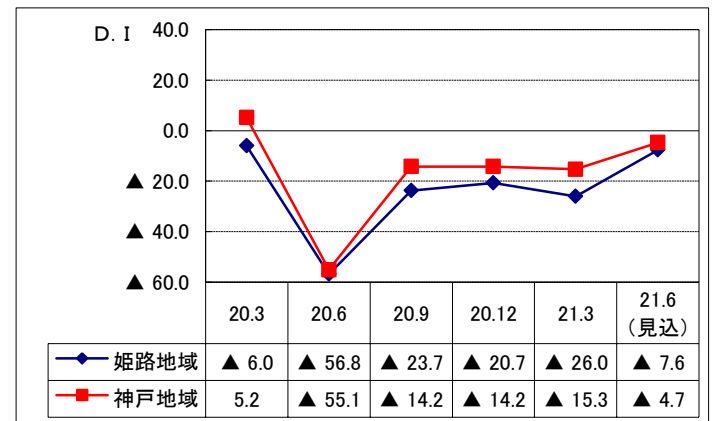
2. 売上額

姫路地域の売上額D. Iは▲26.0、前期比5.3ポイントマイナス（前年同期比 ▲20.0）と低迷しました。

来期予想D. Iは▲7.6、当期比18.4ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。

神戸地域の売上額D. Iは▲15.3、前期比1.1ポイントマイナス（前年同期比 ▲20.5）と低迷しました。

来期予想D. Iは▲4.7、当期比10.6ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。



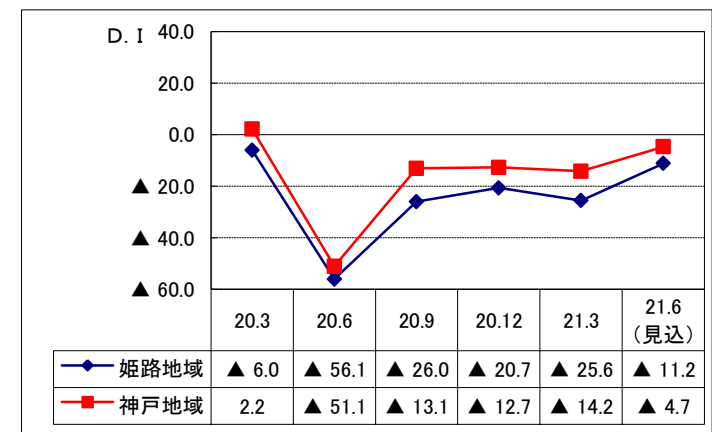
3. 収益

姫路地域の収益D. Iは▲25.6、前期比4.9ポイントマイナス（前年同期比 ▲19.6）と低迷しました。

来期予想D. Iは▲11.2、当期比14.4ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。

神戸地域の収益D. Iは▲14.2、前期比1.5ポイントマイナス（前年同期比 ▲16.4）と低迷しました。

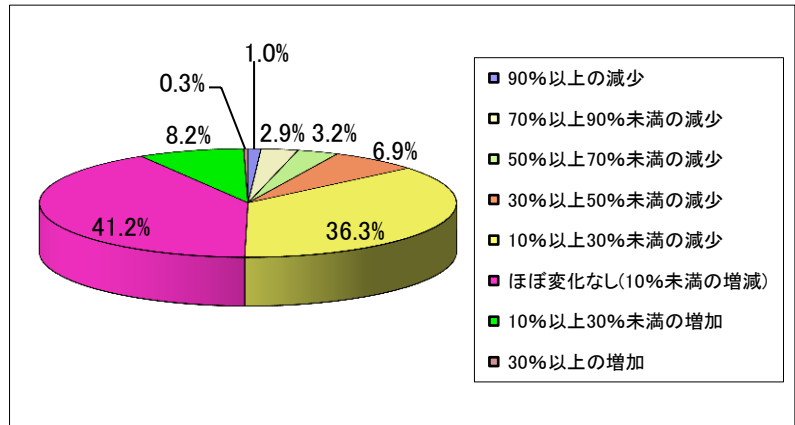
来期予想D. Iは▲4.7、当期比9.5ポイントプラスと減少幅が縮小する見通しです。



特別調査「新型コロナウイルス感染拡大長期化の影響と新常态（ニューノーマル）への対応について」

問1 貴社における今期（1～3月）の売上は、新型コロナウイルスの影響がなかった例年の1～3月と比較して、どの程度変化しましたか。次の1～8の中からお答えください。

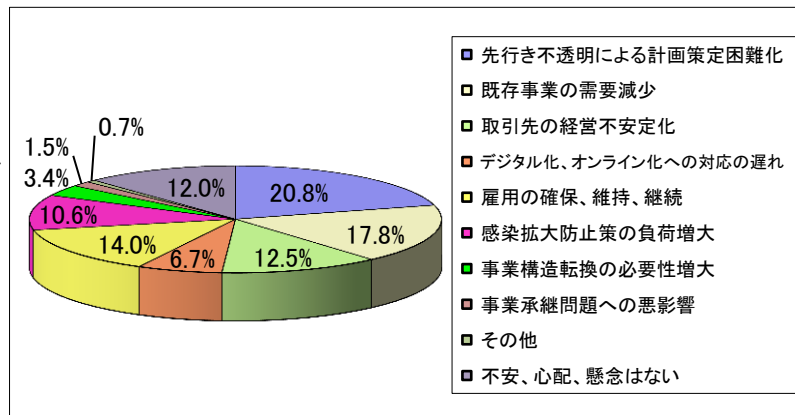
1. 90%以上の減少
2. 70%以上90%未満の減少
3. 50%以上70%未満の減少
4. 30%以上50%未満の減少
5. 10%以上30%未満の減少
6. ほぼ変化なし（10%未満の増減）
7. 10%以上30%未満の増加
8. 30%以上の増加



今期（1～3月）の売上は、新型コロナウイルスの影響がなかった例年の1～3月と比較して、どの程度変化しましたかについて、最も多い回答は「ほぼ変化なし」41.2%、次いで「10%以上30%未満の減少」36.3%という結果となりました。

問2 経済社会全体が新常态（ニューノーマル）へ移行していくなかで、貴社では、事業継続上の不安、心配、懸念はありますか。1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。なお、不安、心配、懸念のない方は0とお答えください。

1. 先行き不透明による計画策定困難化
2. 既存事業の需要減少
3. 取引先の経営不安定化
4. デジタル化、オンライン化への対応の遅れ
5. 雇用の確保、維持、継続
6. 感染拡大防止策の負荷増大
7. 事業構造転換の必要性増大
8. 事業承継問題への悪影響
9. その他
0. 不安、心配、懸念はない

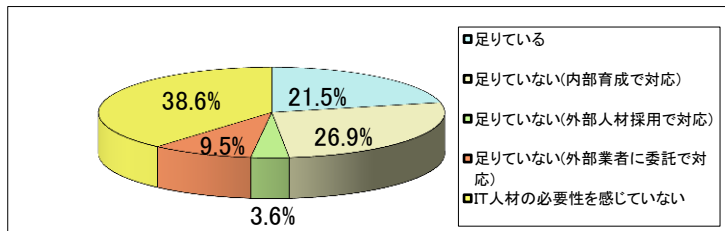


経済社会全体が新常态（ニューノーマル）へ移行していくなかで、貴社では、事業継続上の不安、心配、懸念はありますかについて、最も多い回答は「先行き不透明による計画策定困難化」20.8%、次いで「既存事業の需要減少」17.8%という結果となりました。

問3 新常态（ニューノーマル）へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況にあります。貴社のIT人材はどのような状況ですか。また、貴社でのIT活用はどのような効果を挙げていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。

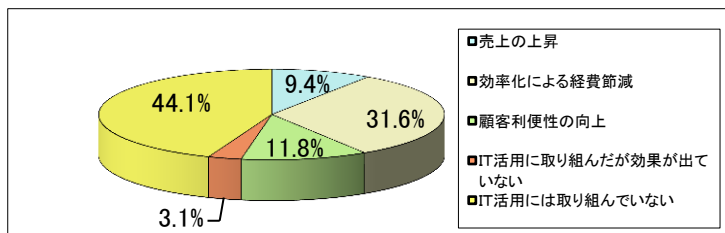
IT人材の状況

1. 足りている
2. 足りていない(内部育成で対応)
3. 足りていない(外部人材採用で対応)
4. 足りていない(外部業者に委託で対応)
5. IT人材の必要性を感じていない



IT活用の効果

6. 売上の上昇
7. 効率化による経費節減
8. 顧客利便性の向上
9. IT活用に取り組んだが効果が出ていない
0. IT活用には取り組んでいない

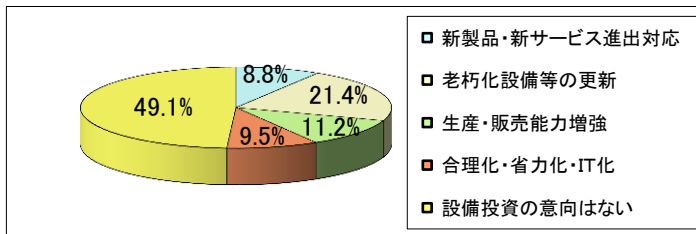


新常态（ニューノーマル）へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況にあります。貴社のIT人材はどのような状況ですかについて、最も多い回答は「IT人材の必要性を感じていない」38.6%、次いで「足りていない(内部育成で対応)」26.9%、IT活用はどのような効果を挙げていますかについては、最も多い回答は「IT活用には取り組んでいない」44.1%、次いで「効率化による経費節減」31.6%という結果となりました。

問4 貴社では、新常态（ニューノーマル）へ向けて、どのような設備投資の意向がありますか。また、足下のコロナ禍は設備投資のスケジュールに影響を及ぼしていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。

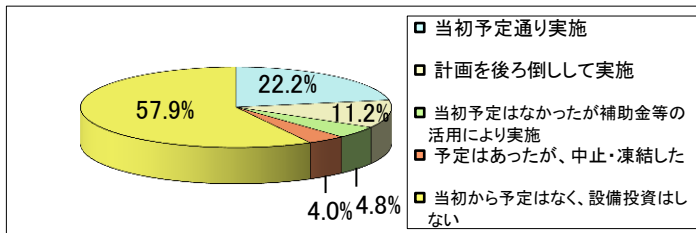
設備投資の意向

1. 新製品・新サービス進出対応
2. 老朽化設備等の更新
3. 生産・販売能力増強
4. 合理化・省力化・IT化
5. 設備投資の意向はない



スケジュールへの影響

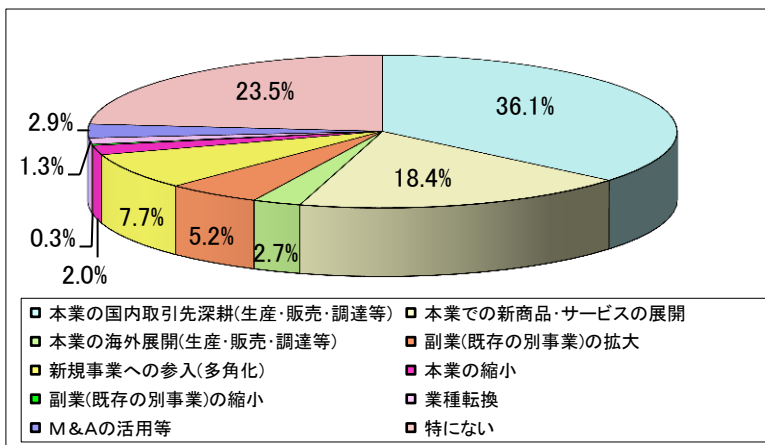
6. 当初予定通り実施
7. 計画を後ろ倒して実施
8. 当初予定はなかったが補助金等の活用により実施
9. 予定はあったが、中止・凍結した
0. 当初から予定はなく、設備投資はしない



新常态（ニューノーマル）へ向けて、どのような設備投資の意向がありますかについて、最も多い回答は「設備投資の意向はない」49.1%、次いで「老朽化設備等の更新」21.4%、足下のコロナ禍は設備投資のスケジュールに影響を及ぼしていますかについては、「当初から予定はなく、設備投資はしない」57.9%、次いで「当初予定通り実施」22.2%という結果となりました。

問5 貴社では、今後どのような事業展開を実施・検討することが想定されますか。該当するものを以下の1～9より最大3つまでお答え下さい。なお、特にないという方は0を選択下さい。

1. 本業の国内取引先深耕(生産・販売・調達等)
2. 本業での新商品・サービスの展開
3. 本業の海外展開(生産・販売・調達等)
4. 副業(既存の別事業)の拡大
5. 新規事業への参入(多角化)
6. 本業の縮小
7. 副業(既存の別事業)の縮小
8. 業種転換
9. M&Aの活用等
0. 特にない



今後どのような事業展開を実施・検討することが想定されますかについて、最も多い回答は「本業の国内取引先深耕(生産・販売・調達等)」36.1%、次いで「特にない」23.5%という結果となりました。